

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

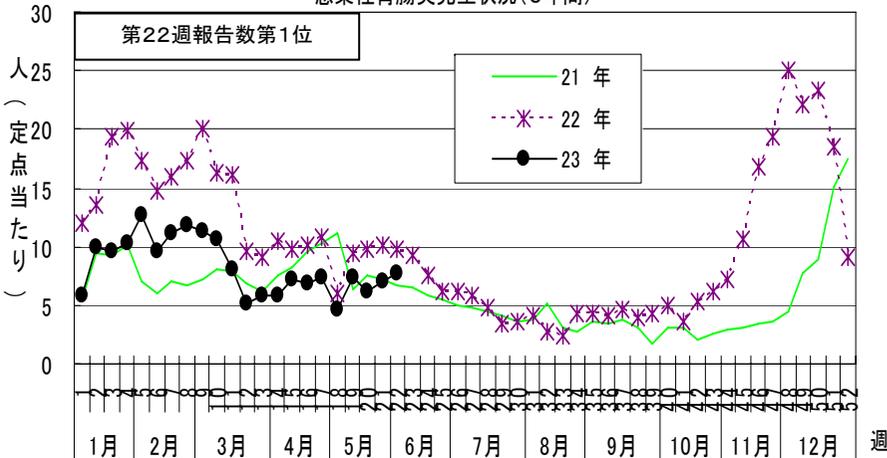
平成23年5月30日（月）～6月5日（日）〔平成23年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

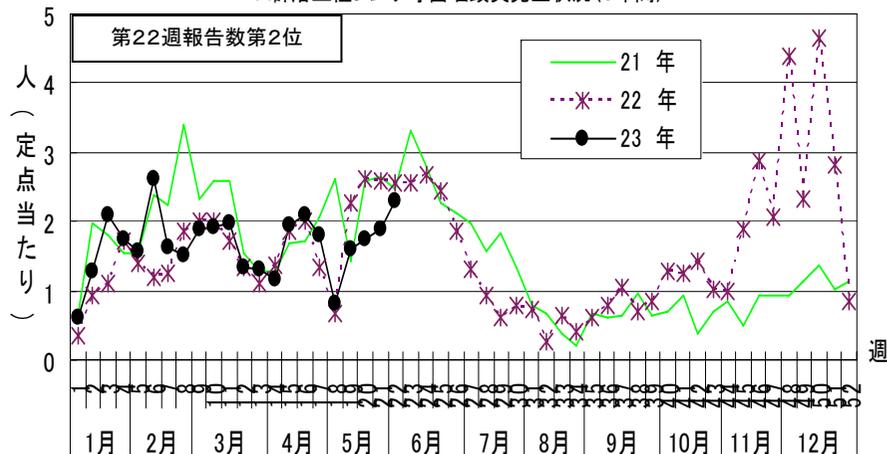
感染性胃腸炎は定点当たり8.03人と前週（7.06）より患者報告数は増加していますが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.38人と前週（1.88）より患者報告数はやや増加していますが、平成14年以降の同時期と比較すると、今年は最も少ない報告数となっています。今後、夏かぜと呼ばれる手足口病などの感染症及び腸管出血性大腸菌感染症（O157など）の報告が増加することが推測されますので、今後の動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



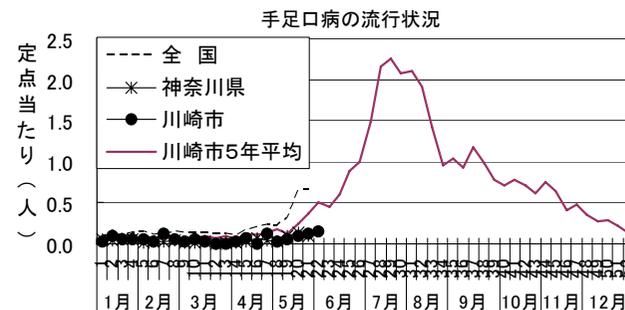
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



夏かぜに負けない！！～手足口病にご注意を～

現在、手足口病やヘルパンギーナなど（いわゆる「夏かぜ」と呼ばれる感染症）の患者報告数が西日本を中心に増加しています。今後は右のグラフのとおり、夏季の流行のピークに向かって患者発生数が継続的に増加し、保育園、幼稚園等の集団生活施設を中心に流行が広がっていくものと推察されます。

あらかじめ、夏かぜの症状や対策を知ること、今年の夏を元気に過ごしましょう。



①手足口病

手足口病はその名前のとおり、手、足、口（口腔粘膜）などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性のウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に夏期に流行します。発熱は出ないか、高くても38℃程度で、咳やくしゃみなどのしぶき、便や水疱の内容物が感染源となり、3～5日程度の潜伏期間の後に発症します。

●気をつけたいこと

ウイルスで汚染された手指からの感染を防ぐためによく手を洗いましょう。特に排泄物の取扱いには注意しましょう。数日中に自然に治りますが、口の中の水疱が痛くて飲食ができないときがあるので、脱水症状に注意しましょう。

②ヘルパンギーナ

潜伏期間は2～4日で、主な症状は38～40℃の発熱と咽頭痛、のどの入口付近の水疱などです。発疹が見られることもあります。

●気をつけたいこと

一般的に熱は一晩もしくは2、3日で下がり、解熱すれば2～3日で回復します。手足口病と同様に、口の中の水疱で飲食ができないことがあるので、食事に気をつけて脱水症状を起こさないようにしましょう。特別な予防法はないので、乳幼児の保護者は手洗いを十分に行ってください。

